

つくほう だより

2026年
6月号



特集 自然とともに人とつながる
つくほうの森プロジェクト・田んぼオーナー

目次

児童入所施設

- 04 子どもの日祭り
- 05 園外活動

障害者支援センター未来

- 07 平沢事業所 作業日誌
- 08 永井事業所 作業日誌
- 09 永井事業所 新年度会

ほっとハウス

- 12 花見
- 13 日中活動決起集会
- 14 バーベキュー
- 15 決算報告
- 17 相談だより、給食だより
- 18 手洗い研修
- 19 お知らせ

表紙

青空の下、収穫の楽しさが伝わる一コマです。
障害者支援センター未来平沢作業所
玉ねぎ収穫
写真撮影 S.S



今回は、相談支援事業所
施設長武田の長話。

各事業所の施設長が、最近考えて
いること等を持ち回りで書くコラ
ム



いちご狩り

児童入所施設と障害者支援センタ
ー未来がいちご狩りに行ってきま
した



見開き特集

自然とともに人とつながる

つくほうの森でのわらび採り体
験、田んぼオーナー制度につい
ての報告



未来・ほっとハウス 保護者会

「親なき後」をテーマとした、筑峯
学園としての考えや親の思いなど
を話し合いました



今回は・・・

相談支援事業所
施設長 武田真浩 の

長話。

まず「聴く」ことから

春といえば……花粉症。個人的な話になりますが、私の花粉症は毎年5月末まで続きます。このたよりを皆様がお読みになる頃には症状も落ち着いているはずですが、年齢を重ねるにつれ少しずつ長引くようになり、ポケットティッシュは夏まで手放せません。

さて、改めまして、社会福祉法人筑峯学園の理念は「自然とともに育ちあい、人と地域の未来を拓く」です。そして行動指針の一つに、「まず『聴く』ことから始めます」という言葉があります。ここのポイントは、「聞く」ではなく『聴く』を用いていることです。

皆様は、人の話を“聞いて”いますか、それとも“聴いて”いますか。同じ「きく」でも、漢字にすると意味が異なり、日本語の奥深さを改めて感じます。

広辞苑によると、一般的には「聞く」を使い、注意深く耳を傾ける場合には「聴く」を使うとされています。また、「聴く」は“身を入れてきくこと”とも記されています。

試しにChatGPTにも尋ねてみました。「聴く」とは、ただ音が耳に入るのではなく、注意や意図を向けて受け取ること。「聞く」は自然に音が耳に入ることや質問することを指す。例：雨の音を聞く。一方「聴く」は、意識して耳を傾け、相手や音楽の中身を受け取ろうとする行為。例：相手の話を聴く、音楽を聴く。

つまり「聴く」には、注意・関心・理解しようとする姿勢が含まれます。人との関係においては、単なる情報収集ではなく、言葉の奥にある感情や沈黙まで受け止めようとする行為でもあります。心理学でいう「傾聴」はまさに“深く聴く”ことであり、評価や結論を急がず、まず相手の世界に耳を澄ませる態度を指します。

私自身も、対応が「聞く」になっていないか、「聴く」ことができているかを振り返りながら、人としっかり向き合える職員でありたいと思っています。また、法人としても“聴くことができる職員が多い”と感じていただけるよう、日々取り組んでまいります。

青空の下でキックベース！こどもの日まつり



5月2日、初夏を思わせる陽気の中、児童施設では「こどもの日まつり」を開催しました。「外で体を動かそう！」というテーマで準備を進めていましたが、数日前まで大雨が続き、「天気は大丈夫かな…」と心配することもちたちの声も聞かれました。外での開催が危ぶまれる状況でしたが、当日は見事な快晴となり、無事に実施することができました。

当日は大池公園野球場でキックベースを行いました。チームごとにカラーを分け、こどもたちと職員が一体となって取り組んだことで、チームの団結力がより高まりました。久しぶりの野外スポーツにこどもたちが笑顔で参加している姿がとても印象的でした。

ご参加いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。筋肉痛は大丈夫でしたでしょうか。翌日「筋肉痛が…」と話している職員も数名おり（施設長を含む）、こどもたちと全力で楽しんだ証となりました。こどもたちも保護者の皆様と一緒にレクリエーションに参加でき、とても嬉しそうでした。

「次はバレーボール！」「野球もやりたい！」「バスケットボールも！」と、次のスポーツへの期待も高まっています。今後もこどもたちが笑顔になれる行事を計画してまいります。



ワクワクと発見の連続！ 子どもたちの初チャレンジ

5月から6月にかけて、児童施設では園外生活指導訓練を実施しました。

今年度春のテーマは「普段、子どもたちが経験したことのないことに挑戦しよう！」です。テーマに沿ってグループごとに計画を立て、さまざまな場所へ出かけました。

初めての体験に、子どもたちも職員もワクワクと不安が入り混じっていました。それでも一歩を踏み出した子どもたちの表情は、とても輝いていました。

あるグループは土浦港クルーズで船に乗ったり、釣り堀で魚釣りに挑戦したり、また別のグループは初めて利用する駅から電車に乗る体験をしたりと、それぞれ工夫を凝らした活動に取り組みました。

思い通りにいかない場面もあったかもしれませんが、初めてのチャレンジに戸惑いながらも楽しむ姿が多く見られ、子どもたちにとって貴重な経験となりました。

かわらけやさんで、いちご狩り体験 🍓



かわらけやさんのご厚意でいちご狩りをさせていただきました。かわらけやさんは、つくば市上境にある、いちごとヤギの農園です。

今回は、児童入所施設の未就学児と障害者支援センター未来の利用者さんが参加しました。真っ赤に実ったイチゴを前に子ども利用者も職員も夢中になっていちご狩りを堪能しました。

イチゴを楽しんだ後は、ヘタをやぎさんたちに食べてもらうというふれあいにほっこり。

筑峯学園にもヤギがいるので、みんな怖がったりすることなく楽しんでいただけたのが印象的でした。

美味しいイチゴと動物たちに囲まれ、とても充実した楽しい時間を過ごすことができました。

かわらけや
<https://kwarakeya.com/>



夏を迎える準備

まだ5月だというのに夏日を記録するなど、今年も暑い夏がやってくるのだと思い始める時期がやってきました。平沢事業所では夏野菜の植え付けに追われる日々を過ごしています。きゅうり、オクラ、枝豆…この後にはナス、ピーマンの植え付けが待っています。

自分たちで種まきから行っているせいか成長は少しゆっくりですが、野菜を収穫した時の達成感はひとしおです。これから夏本番を迎えますが、利用者・職員共にまず体調に気を付けながら作業を進めていきたいと思っています。収穫できる夏野菜を楽しみにしつつ。



「ならでは」なこと

水田に規則正しく植えられ、田植えも一段落した風景を見ると「今年度も始まった」と思わせてくれます。体を徐々に慣らしながら短い春から夏への準備の大事な時期。職員、利用者ともに無理はせず、ゆっくりと慣らせていく光景はならでは。

毎年、種を蒔いて目が出ると皆が喜びの顔が見られるのもこの時期ならでは。そして急激な速さで成長する草に驚くのもならでは。

常に仕事・作業があることを感謝しながら、維持管理の難しさを痛感することで、自然のリズムに合わせた生活に変化しています。



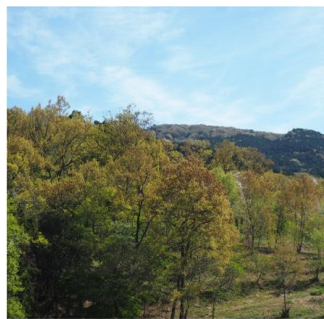
敷地全体を使った宝探しで大盛り上がり！ 笑顔あふれる新年度のスタート！

去る4月15日、永井事業所では新年度会を行いました。2月より加わった2名の新入職員と、4月からグループホームより異動してきた1名の職員を迎え、親睦を深める良い機会となりました。

午前中は、広い敷地内を活用して「宝探し」を実施しました。宝箱の中には、午後のおやつ作りに欠かせない大切な材料が入っています。1班・2班それぞれが自分たちの作業エリアに宝箱を隠し、探すのは相手のエリアという仕組みのため、職員もどこに隠されているか分からない状況でした。各班とも、宝の地図というヒントを頼りに敷地内を歩き回り、無事すべての宝箱を見つけることができました。

午後はいよいよお待ちかねのおやつ作り。「カップdeフルーツサンド」を作りました。時々味見をしながら、たっぷりのフルーツが入った美味しいフルーツサンドが完成しました。

新しい体制となり、より一層チームワークを高めながら、新年度も元気いっぱい、健康第一で頑張っています。



つくほうの森でわらび採り体験会を開催しました

令和8年4月12日・19日、春の青空の下「つくほうの森でわらび採り体験会」を開催しました。ご家族連れを中心にたくさんの方にご参加いただきました。

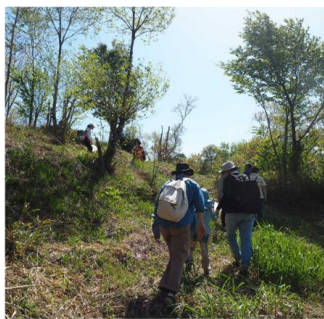
つくほうの森は、利用者の皆さんと職員が農福連携の一環として日々手入れを行っている場所です。かつては荒れていた森林を見事なわらびが収穫できる森へと再生しました。この体験会には、利用者の皆さんが地域に貢献している姿を知っていたくこと、里山保全への関心を広げること、そして障害のあるなしに関わらず自然の中で一緒に過ごせるコミュニティをつくることという3つの願いを込めています。

当日は参加者の体力に合わせて、5分で移動できる「ノーマルゾーン」と、15分ほど山を歩く「ハード

ゾーン」の2コースを用意しました。多くの参加者が本格的な自然体験を楽しみたいという事でハードゾーンを歩き、それぞれのペースでわらび採りを満喫されていました。

10時のスタートとともに、皆さん目をキラキラとさせて周囲を見渡し、わらびを見つけるたびに歓声が聞かれました。参加者同士が声を掛け合い、斜面で助け合いながら収穫を楽しむ姿は、まさに私たちが目指す「自然を通じたつながり」そのものでした。用意した袋がわらびでいっぱいになり、皆さんの笑顔があふれる一日となりました。

来年も開催できるよう、利用者、職員協力して環境整備に努め、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。





「つくほう米」田んぼオーナー制度が始まりました

筑峯学園では、約20年前から筑波山麓の平沢地区で耕作放棄地を再生し、利用者の皆さんと職員でお米づくりに取り組んできました。宝篋山からの清らかな沢水と昔ながらの棚田で育てた「つくほう米」は、市内の飲食店でもご利用いただいています。

一方で、地域では農業の担い手不足や耕作放棄地の増加が進んでいます。この課題に対し、令和8年度から新たに「田んぼオーナー制度」をスタートしました。オーナーの皆さんに田植えや稲刈りなどの農業体験を楽しんでいただきながら、収穫したコシヒカリ（玄米60ぶ保証）をお届けする仕組みです。体験中の様子はプロのカメラマンが撮影し、思い出も一緒にお届けします。

この田んぼオーナー制度には3つの目的があります。1つ目は、自然を通じた地域コミュニティの形成。2つ目は、利用者の皆さんの就労機会と工賃の向上につながる農福連携。3つ目は、筑波山麓の美しい農地と景観を次世代へ守り継ぐことです。

3月のキックオフミーティングでオーナーの皆さんと顔合わせを行い、4月29日には第1回田植え体験会を開催しました。田植え機の実験や手作業での補植に、ご家族連れの皆さんが笑顔で取り組まれました。秋の収穫に向けて、日々の水管理や草刈りは利用者と職員が責任を持って続けてまいります。





お花見&クレープ作りで春を満喫

4月初旬、ほっとハウスでは毎年恒例のお花見を行いました。当日は午前中に調理レクリエーションを実施し、おやつのクレープ作りを楽しみました。クレープはキャラメルソースとチョコソースのどちらかを選んでいたいただきましたが、中には「どちらも食べたい」と両方をかける方もおり、和やかな雰囲気の中で調理を楽しむことができました。

桜の見頃は過ぎており満開の桜を見ることはできませんでしたが、「花より団子」といった様子で、皆さんの笑顔があふれる楽しい一日となりました。

お花見と展望公園でリフレッシュ 春の決起集会



今年度は「決起集会」と称した新年度会を、ホーミックふれあい公園と朝日峠展望公園にて行いました。午前中はお花見を楽しみながら遊具で体を動かし、昼食後にはそれぞれ好きなおやつを購入して朝日峠展望公園へ向かいました。

頂上では、今年度の抱負や目標を一人ひとり発表しました。「運び作業を頑張りたい」「作品制作にもっと取り組みたい」など、前向きな声が多く聞かれ、皆さんの意欲を感じる時間となりました。

皆さんの目標が達成できるよう、職員も気持ちを新たに、日々の活動と支援に力を尽くしてまいります。



春のバーベキュー 沖縄気分でめんそ〜れ！

ほっとハウスでは5月30日に恒例のバーベキューを行いました。今年は青い空と心地よい風、程よい暑さ、そして美味しい肉が焼ける熱さの鉄板と、すべての条件がそろった絶好のバーベキュー日和となりました。今回のテーマは「沖縄」。定番の焼き物に加え、沖縄風の料理も取り入れてみました。馴染みの少ない沖縄料理でしたが、食べやすいメニューを選んだこともあり、皆で美味しく味わうことができました。

例年バーベキューを行ってきた中で、今年特に感じたのは、利用者さんが落ち着いて参加できるようになったことです。いい意味でガツガツせず、ゆったり座って食事を楽しむ姿が見られ、年々の積み重ねの成果なのかもしれません。とても嬉しい変化でした。



令和7年度決算状況報告

資金収支計算書	
R7.4.1～R8.3.31 (単位:円)	
科目	決算額
事業活動収入計	659,175,652
事業活動支出計	552,578,887
事業活動資金収支差額(1)	106,596,765
施設整備等収入計	4,996,000
施設整備等支出計	40,334,504
施設整備等資金収支差額(2)	△35,338,504
その他の活動収入計	7,477,750
その他の活動支出計	45,752,130
その他の活動資金収支差額(3)	△38,274,380
当期資金収支差額合計(4=1+2+3)	32,983,881
前期末支払資金残高(5)	213,276,336
当期末支払資金残高(6=4+5)	246,260,217

事業活動計算書	
R7.4.1～R8.3.31 (単位:円)	
科目	決算額
サービス活動収益計	650,472,669
サービス活動費用計	580,412,968
サービス活動増減差額(1)	70,059,701
サービス活動外収益計	8,702,983
サービス活動外費用計	8,414,579
サービス活動外増減差額(2)	288,404
経常増減差額(3=1+2)	70,348,105
特別収益計	4,996,000
特別費用計	5,152,200
特別増減差額(4)	△156,200
当期活動増減差額(5=3+4)	70,191,905
前期繰越活動増減差額(6)	397,987,461
当期末繰越活動増減差額(7=5+6)	468,179,366
その他の積立金取崩額(8)	0
その他の積立金積立額(9)	40,000,000
次期繰越活動収支差額(10=7+8-9)	428,179,366

貸借対照表			
R8.3.31現在 (単位:円)			
資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	268,517,790	流動負債	69,533,697
固定資産	757,739,625	固定負債	348,330,144
		負債の部合計(1)	417,863,841
		純資産の部	
		基本金	4,212,031
		国庫補助金等特別積立金	18,334,177
		その他の積立金	157,668,000
		次期繰越活動収支差額	428,179,366
		純資産の部合計(2)	608,393,574
資産の部合計	1,026,257,415	負債・純資産合計(3=1+2)	1,026,257,415

先の理事会評議員会において承認されました当法人の令和7年度収支決算報告は以上のとおりです。尚、事業報告、財産目録及び各種明細表につきましては、筑峯学園内の当法人事務所において閲覧できます。ご希望の方はお申し出ください。

社会福祉法人筑峯学園 理事長 岡野光宏

令和8年度の未来・グループホーム 保護者会総会およびシンポジウム



今回のテーマは「親なき後への備え」。

成年後見制度の現状や法改正の動き、そして今からできる備えについて、皆様とともに考える貴重な時間となりました。ご家庭ごとに状況は異なるため、今後はそれぞれのご家庭に合わせた「親なき後ノート（仮）」を作成していく予定です。

お話を伺いながら、これまでお世話になってきた保護者の方々が先立たれたことや、これからのことを思うと胸が熱くなる場面もありました。先のことを考えるのは時に苦しいものですが、残される側にとっては大切な準備でもあります。

今回のシンポジウムは、ご家族の不安やお気持ちに触れながら、施設として何ができるのかを改めて考える機会にもなりました。

今後とも、ご本人とご家族が安心して笑顔で過ごせるよう、チーム一丸となってサポートしてまいります。



相談支援専門員と介護支援専門員

「相談支援専門員はケアマネジャーでしょ？」と言われることがよくありますが、その通りであってその通りではないと言いますか、同じようで同じではないところがございますので、お伝えさせていただきます。

利用者さんの生活課題を把握し、アセスメントに基づき計画を作成すること、サービス事業所や行政等との連絡調整、モニタリング、計画の見直しを行なうことは共通するところです。

異なる点としては、ケアマネジャー（＝介護支援専門員）は介護保険制度に基づき、介護保険の要介護者に対しケアプランを作成し、介護サービスの調整を行なう専門職で、相談支援専門員は障害者総合支援法に基づき、障害福祉サービスを利用する障害児者の相談支援とサービス等利用計画の作成・調整を行なう専門職です。制度（介護保険か障害福祉か）、対象者、根拠となる法律、必要研修や資格要件、作成する計画書の種類等が主な違いとなります。また、大きな違いとしては給付管理業務を行なうかどうかという点です。ケアマネジャーは行ないませんが、相談支援専門員は行ないません。その他にも細かな部分で行なえること、行なえないことがございますので、利用される際には確認や質問をされながら利用していただけるとよいかと思えます。

食中毒予防3原則



緑の香りもいっそう濃く感じられる季節になりました。

皆様、お元気で過ごしてでしょうか。

この時期に特に気を付けなければならないのが食中毒です。食中毒予防の3原則は「つけない・増やさない・やっつける」です。

調理前の手洗いを徹底し、食材は適切な温度で保存しましょう。また、多くの細菌やウイルスは加熱に弱いため、食品の中心部まで十分に加熱することが大切です。さらに、食材を購入する際には消費期限を確認し、肉汁や魚の水分が他の食品につかないように分けて持ち帰ることも重要です。

これらのポイントを基に、ご家庭でも食中毒予防を実践しながら、この時期を安全に過ごしましょう。

手洗いの質を見える化！ 感染症対策研修を実施しました

食中毒対策・感染症対策の一環として、手洗い研修を行いました。今回は「ヨウ素でんぷん反応」を利用し、手洗いの洗い残しを可視化する取り組みです。

ヨウ素でんぷん反応とは、小学校の理科でも学ぶように、褐色のヨウ素液がデンプンと反応すると青紫色に変化する性質を利用したものです。身近な材料で簡単に実施できます。

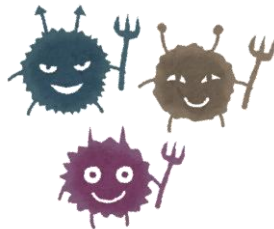
〈準備〉 ① 温水400mlに片栗粉大さじ2を少しずつ混ぜ、でんぷんクリームを作ります（温水を使うのがポイント）。② うがい薬大さじ2を水1ℓで薄め、ヨウ素液を洗面器やボウルに用意します。

〈実施方法〉 でんぷんクリームを手全体にすり込み、しっかり乾燥させます。爪の間や手首まで丁寧に。その後、ハンドソープで手を洗い、ヨウ素液に手を浸します。

すると—— **洗い残しが青紫色に！** 手のしわや爪の間など、汚れが残りやすい部分が一目で分かります。

グループホームの研修では、「水洗いのみの手」と「ハンドソープで洗った手」を比較しました。ハンドソープで洗った職員（元お寿司屋さん）の手は、洗い残しがほとんど見られず、参加者から驚きの声が上がりました。

皆さんの手洗いはどうでしょう。日々の感染症対策として、正しい手洗いを続けていきましょう。



後援会会員を募集 しています

日頃より筑峯学園に温かいお心遣いを
いただき、深く感謝申し上げます。
引き続き、皆様のご指導とご支援を宜
しくお願い申し上げます。
後援会会員の方には、広報誌を送らせ
ていただきます。

年会費
個人会員
一口5,000円より
法人会員
一口10,000円より



ご寄附について

様々な形でのご寄附を受け付けてお
ります。寄附金以外に、学習用品、
画材、本、おもちゃ等、利用児・者
の為に使わせていただきます。

ご支援をお願い申
し上げます。
寄附申し込みフォ
ーム、お電話、メ
ール等で受け付け
ております



Instagram 始めました



follow
us!

筑峯学園の日々の
様子を発信してい
ます。

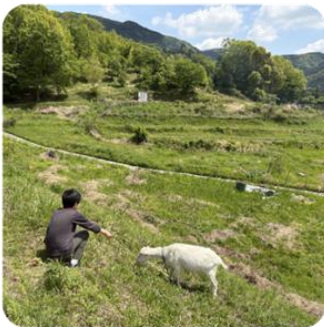
つくほうだよりに関する皆 様のご感想やご意見ご要望 をお聞かせください



編集後記

実は私には「推し」がいたのです。他法人さんの広報担当で、「編集後記」がクスッと笑える素敵な文章を書かれる方。今年度担当の方が変わられたようで、残念です。いい塩梅でプライベートを出すのは難しいですが、私もこれから彼女の文章を見習って頑張ってみます。

私には年長と年少の子どもがいて、ただいまラン活の真っただ中です。母は軽いもの、娘はかわいいもの、無関心の父、まだ年中なのにその気になっている息子。終着点はどうなるのか！私にも分かりません。（井上）



社会福祉法人
筑峯学園

発行日／令和8年3月
発行所／社会福祉法人筑峯学園
〒300-4213 茨城県つくば市平沢655-4
MAIL sat@tsukuhou.or.jp
WEBSITE <http://www.tsukuhou.or.jp>